

「山科検定」参考資料集

この資料は、山科区の沿革や、公式テキスト『京都山科 東西南北』の発行以降（平成 22 年 5 月～28 年 9 月）の山科の出来事、同テキストの時点修正事項等を、「山科検定委員会」事務局において編集し、取りまとめた参考資料です。

※ 当該資料からの出題を保証するものではありません。あらかじめ御了承ください。

1 山科区の沿革

◆ 山科区のあゆみ

山科地域にあった安朱村ほか 22 村が、明治 22 年の町村制施行ですべて山科村となり、大正 15 年 10 月には宇治郡山科町となりました。

その後、昭和 6 年 4 月に宇治郡山科町から京都市東山区に編入され、昭和 26 年 6 月に東山区役所山科支所が開設されました。

昭和 33 年以降に始まった名神高速道路の建設で、国道 1 号線と結合する京都東インターチェンジが設けられてからは、交通の要衝として急速に発展。山科地域の急激な人口の増加が始まったことをうけ、昭和 51 年 10 月、東山区から旧山科地域が山科区として分区され、現在の山科区となりました。

近年は、地下鉄東西線の開通、山科駅再開発整備事業の完了などのビッグプロジェクトが成功するとともに、山科地域体育館や山科総合福祉会館の建設、阪神高速 8 号京都線（稲荷山トンネル）の開通などに伴い、都市機能が充実し、まちの様相は大きく変貌してきています。



空から見た山科区

◆ 山科区のシンボルマーク

平成 18 年 10 月 1 日、山科区誕生 30 周年を記念し、一般公募のうえ、制定しました。

「水と緑と歴史に彩られたまち山科」をイメージしており、山科の「Y」をモチーフとして、芽生えた双葉から「緑」、取り囲む楕円形で「水」、巡る様子で「歴史」を表現しています。

また、全体を斜めにすることで躍動感を表し、山科区の進歩と発展を願うデザインとなっています。



山科区のシンボルマーク

◆ 山科区の人口・世帯数の推移（推計人口）

年 (全て 10 月)	人 口 (単位：人)			世帯数 (単位：世帯)
	総数	男	女	
昭和 55 年	136,318	66,572	69,746	45,900
昭和 60 年	136,954	66,439	70,515	46,299
平成 2 年	136,070	65,446	70,624	47,635
平成 7 年	137,104	65,496	71,608	50,951
平成 12 年	137,624	65,589	72,035	53,741
平成 17 年	136,670	65,206	71,464	56,429
平成 22 年	136,045	64,866	71,179	58,321
平成 27 年	135,192	64,098	71,094	60,492

～トピックス～ 「昔あった建物いろいろ」

① かねぼう 鐘紡山科工場



大正 10 年から昭和 45 年まで、山科中央公園近くの一帯に大きな敷地をもった鐘紡の工場がありました。現在は、山科団地、安祥寺中学校、山科郵便局、山科消防署などが立ち並んでいます。

② 山科駅前の食堂



昭和 34 年のコメディ映画「危険旅行」で京津線の線路やこの食堂がロケに使われ話題になりました。中村登監督の作品で、高橋貞二や有馬稲子、トニー谷などが出演。写真は昭和 28 年、「まるきん食堂」の開店時のものです。昭和 41 年頃まで山科駅前にありました。

③ 山科の映画館



山科映画劇場は昭和 2 年、山科京極付近に開館しました。当時は、鐘紡の女工さんもよく観に行っていたそうです。この建物は昭和 50 年頃までありました。写真は東海道線電化を祝うため義士行列を出して、映画劇場前で記念撮影をしたものです。この義士行列が現在の義士まつりのルーツになりました。

④ 山科観光ホテル



昭和 43 年頃から昭和 45 年頃まで、現在の音羽病院がある場所に、山科観光ホテルがありました。昭和 55 年に同病院となり、現在に至っています。

出典：写真集モノクロームヤマシナ(平成 18 年 3 月発行)

2 山科区の出来事（平成 22 年 5 月～平成 28 年 9 月）

◆ 清水焼団地が創立 50 周年

平成 23 年，東山区の五条坂等から移転し誕生した「清水焼団地」が創立 50 周年を迎えた。平成 22 年には，同団地の茶碗をモチーフにしたキャラクター「きよまる」が誕生しました。

「きよまる」は，「もてなすくん」(*) とともに，山科区制 40 周年記念事業応援大使としても活躍しています。

※「もてなすくん」については，公式テキスト p13 を御覧ください。



きよまる

◆ 山科こども歌舞伎塾 結成

平成 23 年，山科区内の幼稚園児等により平成 21 年から公演が始まった「山科こども歌舞伎」を，過去に出演した卒園生を集め後進に継承し，本格的な歌舞伎にしようと，「山科こども歌舞伎塾」が結成されました。

◆ 地下鉄・市バス応援キャラクター「小野ミサ」誕生

平成 23 年，地下鉄 5 万人増客を目指して創設された「若手職員増客チーム」の発案で，地下鉄・市バス応援キャラクターの「小野ミサ」が誕生しました。名前は，地下鉄東西線「小野駅」及び「御陵駅」に由来しており，既に登場していた「太秦萌」の幼なじみという設定です。



<小野ミサ プロフィール>

京都市内の高校に地下鉄を使って通う高校 2 年生。太秦萌の幼なじみで，あるアニメの影響で軽音部に所属し，ギターを担当。二人兄妹の妹で，兄は「小野陵」。音楽と植物が好きなちょっとクールな女の子。育てている植物はハイ苔で作った苔玉。運動は苦手なため，つついエスカレーターを使っちゃう派です。

© Kyoto Municipal Transportation Bureau 2013-2016

◆ 「京阪京津線」が開業 100 周年

平成 24 年 8 月，山科区の御陵駅と天津市の浜大津駅を結ぶ「京阪京津線」が開業 100 周年を迎えました。

同年 6 月には，100 周年を記念し，平成 9 年の京都市営地下鉄東西線乗り入れに伴い廃線になった山科区内の駅（日ノ岡駅，九条山駅）など，浜大津駅から三条駅までの 12 キロを歩いて迎える「記念ウォーク」が開催されました。



山科区内を走る京津線

◆ **山科図書館が開館 60 周年**

平成 24 年、山科図書館が開館 60 周年を迎えました。
開館 60 周年を記念事業の一環として、キャラクター（ぶっくろう）が誕生したほか、館内に、山科の歴史や文化などを記した本や冊子を集めた「山科コーナー」が設置されました。



ぶっくろう

◆ **森田理香子氏が「やましな栄誉賞特別大賞」を受賞**

平成 26 年 2 月、関西出身ゴルファーとして初の賞金女王獲得に輝くなどの功績が認められ、山科区出身のプロゴルファー、森田理香子氏が、スポーツ、文化及び産業の各分野において、全国的に「山科区」の存在をアピールすることに功績のあった方を表彰する「やましな栄誉賞」の特別大賞を受賞しました。

<参考> 歴代やましな栄誉賞受賞者

受賞年度	受賞者（肩書，功績等）
平成 14 年度	松井 大輔氏（プロサッカー選手）
平成 15 年度	中島 知子氏（タレント）
平成 16 年度	今井 政之氏（陶芸家）
平成 17 年度	平井 直人氏（元プロサッカー選手）
平成 18 年度	藤山 直美氏（女優）
平成 19 年度	田端 泰子氏（歴史学者）
平成 21 年度	大八木 誉之氏（新潟国体（バスケットボール）優勝）
平成 22 年度	森田 理香子氏（プロゴルファー）
平成 23 年度	栗崎 高行氏（第 8 回国際アビリンピック銅メダル）
平成 24 年度	永井 奈都氏（プロゴルファー）
平成 25 年度	森田 理香子氏（プロゴルファー）※特別大賞
平成 26 年度	竹本 昌生氏（警察犬訓練士）
平成 27 年度	波留 敏夫氏（元プロ野球選手）

◆ **鏡山循環系統バスが本格運行を開始**

平成 27 年 3 月鏡山地域と山科駅を循環するバスが 19 年ぶりに復活しました。

平成 8 年の休止後，“地域の足”として、住民による復活を求める活動が高まり、平成 25 年から実証運転を実施。現在は、「鏡山循環系統バス」として本格運行が行われています。



鏡山循環系統バス

◆ **「琵琶湖疏水通船復活試行事業」実施**

琵琶湖疏水の建設の意義を改めて認識いただき、新たな観光資源として琵琶湖疏水沿線の天津・山科・岡崎地域の更なる活性化の源となることに寄与するため、「琵琶湖疏水通船復活」試行事業が実施されています。

平成 27 年 3 月には、昭和 26 年に姿を消した琵琶湖疏水における舟運が試行事業という形で 64 年ぶりに復活しました。本格実施に向けて、平成 27 年春、秋及び平成 28 年春に試行事業が実施され、平成 28 年秋にも試行事業が実施されます。

※山科疏水について、公式テキスト p6～p9 を御覧ください。



琵琶湖疏水通船

◆ 伏見城の採石場跡が発見される

平成 25 年 6 月、山科区大塚葎ヶ谷の山中で、豊臣秀吉や徳川家康の居城であった伏見城の石垣の普請に使われた採石場跡が発見されました。

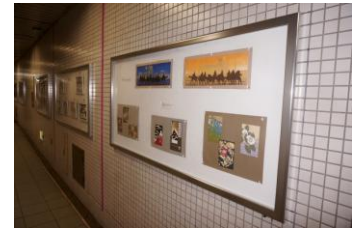
豊織政権期～江戸時代前期の儒医小瀬甫庵が書いた秀吉の伝記『甫庵太閤記』に、伏見城を築く際に、山科の山中で採石したとの記述があり、発見された遺構は文献史料を裏付けるものと考えられています。

採石場跡からは、石を効率的に割るための矢穴がつけられた花崗岩 24 個が点在していたことが明らかになり、その内、複数個の石には、当該期の大名が採石者を示すために彫った記号「一に〇」や「四つ目」という刻印があります。

◆ アートロードなぎつじが開設

平成 26 年 3 月、地下鉄東西線柳辻駅構内に、アート作品を展示できる「アートロードなぎつじ」が誕生しました。

「アートロードなぎつじ」には、絵画や写真など、山科区民の皆様から募ったアート作品が展示されています。



アートロードなぎつじ

◆ 「京都市・大津市間の災害時における避難所の相互利用に関する協定」が締結

平成 26 年 4 月、京都市と大津市は、「京都市・大津市間の災害時における避難所の相互利用に関する協定」を締結しました。

協定の締結に伴い、山科区音羽学区と大津市藤尾学区の住民が災害時に互いの避難所を利用できるようになったほか、必要に応じて両市の職員を相手方の避難所に配置することができるようになりました。

なお、府県境を越えて避難所の相互利用に関する協定の締結は、全国で初めてです。

◆ 山科本願寺の遺構が国史跡に追加指定

平成 24 年からの新たな発掘調査により、山科本願寺跡の中心部分である御本寺部分から、石風呂を伴う建物跡等が確認されたことをうけ、平成 28 年 3 月、「山科本願寺跡及び南殿跡」として国史跡の追加指定が行われました。

※山科本願寺については、テキスト p38～p40 を御覧ください。

3 公式テキスト時点修正事項

公式テキスト ページ数	項目	変更点	
7	④ 母子地藏	(誤) 疏水の完成から 9 年後の (正) 疏水の完成から 13 年後の	
12	⑳ 京都お箸の文化資料館	閉館した。	
14	おもしろ 街道に敷かれた車石	(誤) 敷設する前に刻んだものか、車の往来によって削られたものかについては、諸説があります。 (正) 車の往来によって削られたものと言われています。	
22	イラスト	(誤) 至 奥醍醐 (正) 至上醍醐	
25 56	⑥④ 大宅一里塚 区民誇りの木 (E06) エノキ	植えられていたエノキの木は、平成 28 年 9 月に倒木した。	
29	おもしろ 東野にあった「桐材問屋」	現在は、写真の看板については取り除かれている。	
32 45	⑦⑨ 清水焼団地 山科区の年間行事一覧表	現在は、「陶器まつり」及び「楽陶祭」は、統合され、10 月第 3 金・土・日曜日に「清水焼の郷まつり」と名前を変えて開催されている。	
33	⑧① 砥粉工場	現在では「砥之粉」という記載がよく用いられている。	
36	⑨② 上村堤防 (水堤防)	(誤) 大正後期 (正) 明治の後半	
39 54	⑨⑧ 山科本願寺南殿跡 山科の指定・登録文化財	山科本願寺跡の中心部分である御本寺部分から石風呂を伴う建物跡等が確認されたことにより、平成 27 年 12 月「山科本願寺跡及び南殿跡」として国史跡の追加指定が行われた。	
39	イラスト	(誤) 蓮如上人御指図井戸 (正) 蓮如上人御指図井	
45	山科区の 年間行事 一覧表	わらじ市	現在は、時期及び名称を変えて開催されている。
		三条街道わくわくフェスティバル	現在は、時期及び名称を変えて開催されている。
46	⑩⑨ 愛宕常夜灯	醍醐街道 (東野百拍子町) の常夜灯は現在撤去されている。	
50	山科の出来事 (学区別一覧)	近代 (明治) / 安朱	(誤) 1901 母子地藏堂建立 (正) 1903 母子地藏堂建立
		近代 (明治) / 共通	(誤) 1876 戊申戦争 (正) 1876 戊辰戦争
51	近世 (江戸) / 百々	(誤) 1700 大石良雄, 山科閑居 (正) 1701 大石良雄, 山科閑居	
55	山科区の埋蔵文化財包蔵地一覧	新たに、「大塚・小山石切丁場跡」が追加された。	
56	区民誇りの木 (B04) クロマツ	現在は存在しない。	